

出雲ブランド化推進市民委員会【自然・環境グループ】

第1回 現地取材メモ《活動記録》

フォトヴォイスプロジェクト唐川編

日 時： 平成23年(2011)5月13日(金) 10:00～17:00

場 所： 唐川町(平田地域) …「お茶の里唐川館」、「河下台場跡」、「韓竈神社」など

参加者： 市民委員10名、案内1名、その他1名(報道)、事務局1名 計13名

記 録： 吾郷 誠(自然環境グループ・サブリーダー)

「ブランド戦略は、イメージ戦略である」という考えから生まれた「フォトヴォイスプロジェクト」は、出雲の風景や事物を「写真(フォト)」にし、それにあった「言葉(ヴォイス)」を添えてひとつのイメージをつくり出すプロジェクトです。自然環境グループでは、当該プロジェクトを進めるために「人間と自然のかかわりの深い土地」を選定し、グループのメンバーを中心に現地を訪れて、その土地の皆様からその土地の話(物語)を聞き、「写真」や「言葉」で記録する企画を実施することとしました。

その第1弾として今回は、お茶の産地・平田地域の「唐川」を訪問しました。

日本では、立春から数えて八十八日目(5月はじめ)を、古来より「八十八夜」といってきました。このころは、「忘れ霜」が降る時期であり、農家に対して注意をするために生まれた季節の言葉です。また、この日に摘んだ茶は上等なものだとされ、この日にお茶を飲むと長生きするとも言われています。茶のもっとも美しい初夏の時期に、出雲の茶の産地・唐川を写真や言葉にしなが、鱒淵コミュニティセンター長の案内で、お茶畑や最近注目されているスポット「韓竈(からかま)神社」を訪れました。

唐川の茶畑は、本当に美しく、一望していると、お茶を一服いただいたようなホッとした気持ち



■唐川の茶畑を一望する。

になりました。韓竈神社は、平坦な杉林を歩き、峻険な山道をゆき、そして最後にあの岩。石の質感を手に感じながら、どうにか岩の間を通り抜けることによって、神様に会う準備が整った気持ちになりました。「神社やお寺には、なぜ参道があるか」が、韓竈神社を訪れて初めて分かったような気がしました。

道中では、松江藩が奨励した「油桐」という植物や鉱山経営の歴史、また今に伝わる巨人伝説など、聞かなければわからない話をたくさん聞くことができました。



■「油桐」の話を聞く。

《フォトヴォイス (サンプル)》

集めた言葉 大切なときにお参りするところ / 生業が美しい。 / 自然というアトラクション / 自然のかたちには、表情がある。 / 野辺の草木にも、物語がある。 / 風が見える。 / たくさんの生き物が暮らしてきた道。 / 岩、ごつごつ。足、がくがく。 / 岩を拝む。 / 出雲の昔は、神代の昔。 / おいしい自然、あります。 / 生き物密度、高いです。 / いのりの道、くらしの道、自然の道。 / 岩の間を抜けて、会いに行く。 / お茶は体の薬。出雲は心の薬。 / 自然のリズムを聴く。 …etc.

